旧城下町鹿児島「博学連携」プロジェクト

小林善仁（法文学部）・南直子（法文学部）・永迫俊郎（教育学部）

1. プロジェクトの目的

明治初期の廃藩後に旧城下町となった鹿児島市街地（鹿児島城跡を含む）の近代における地理的・歴史的状況とその変容過程を解明し、得られた調査・研究成果を大学教育と地域での生涯学習（博物館施設）などに活用することが目的である。これは、本センターの「『鹿児島の近現代』教育研究拠点整備事業」が目指す、本学や地域の所蔵する歴史的・文化的・地理的資源の調査・研究と地域への成果の還元はもとより、地域課題を踏まえたまちづくりと地域の社会教育・郷土教育にも資する地域振興の取り組みの一つに位置付けられる。

2. プロジェクトの内容

本プロジェクトの特色の一つが地域の博物館施設と大学の共同実施であり、本年度は鹿児島市立ふるさと考古歴史館（以下、ふるさと考古歴史館と略記）と協力して実施した。対象地域の鹿児島市街地では「城跡」「寺跡」「繁華街」「郊外」の四つの調査テーマを設定した（図1）。戦国期や幕末・維新期の人物史に偏りがちな鹿児島市の地域教育と観光振興の現状において、これらの解明は地域史だけでなく、生涯学習や学校での地理・歴史教育、観光商品の開発などにも役立つ。そこで、数年がかりでこれらに関する歴史的・地理的・文化的情報の収集を行い、本年度は鹿児島城跡と周辺地域（とくに城北エリア：浄光明寺～興国寺墓地～福ヶ迫～最大乗院～私学校跡）を調査した。実施内容は ①文献調査とフィールドワークによる情報の収集・分析、②古地図などの地理資料の収集、③鹿児島市街地の近代的事象の相対化（鹿児島県内・県外）として、他地域（福岡・熊本）の事例との比較・検討を行う。

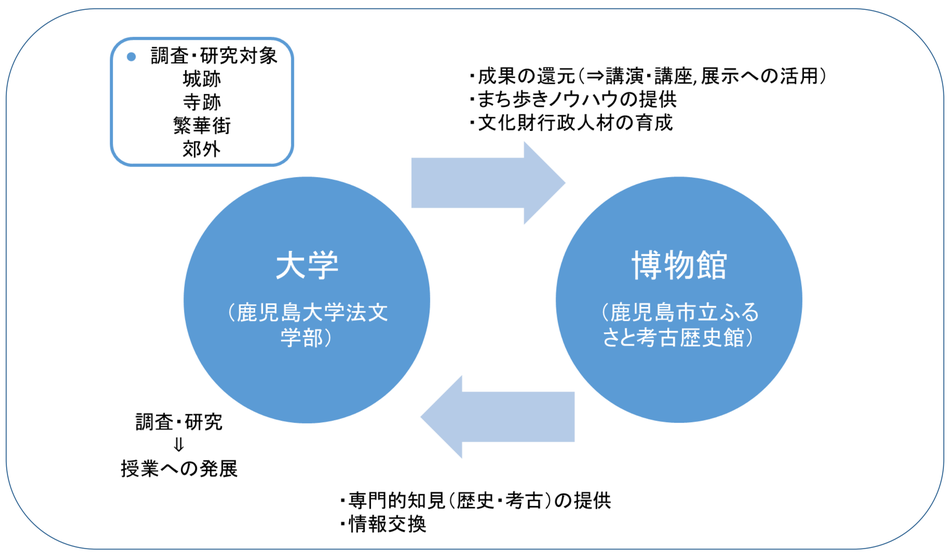

図1. 連携の枠組み

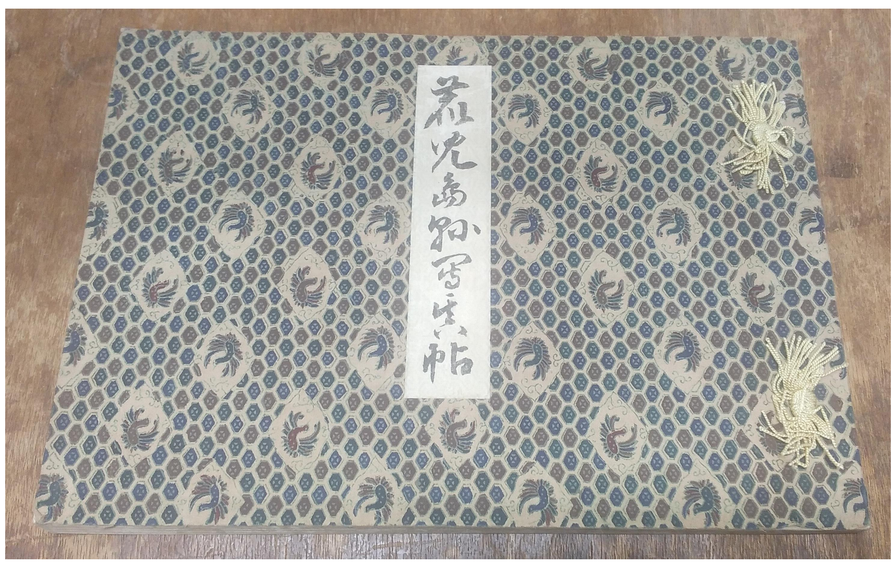

図2. 『鹿児島県写真帖』, 明治40（1907）年撮影

3. プロジェクトの成果

①城跡に関する新知見（城堀跡での福昌寺・最大乗院の再興など）と貴重資料（『鹿児島県写真帖』：図2・3）の収集。
②大学の地理教育（「地理学講義A」：図4）と地域の生涯学習（ふるさと考古歴史館のまち歩きイベント）の実施。
③市民講座での調査・研究成果の還元、並びにまち歩き素材の開発を視野にいれた基礎資料の提供とガイドブックの共同作成（図5）・ルート開発など博学の連携（地域課題の共有・意見交換も）。

図3. 城山から見た明治40年の鹿児島市街地
※図2と同じ

図4. フィールドワークの一コマ
※筆者撮影

図5. まち歩きガイドブック　※ふるさと考古歴史館 作成

【謝辞】
本プロジェクトを実施するにあたり、学芸員の中村友昭氏をはじめ鹿児島市立ふるさと考古歴史館の皆様、並びに調査先など多くの方々のお世話になりました。なお、本プロジェクトは「鹿児島の近現代」教育研究センター「地域マネジメント教育研究推進事業」の助成を受けて実施したものです。ここに記して、厚く御礼を申し上げます。